

## 進捗状況の概要（1ページ以内）

平成29年度の進捗状況について以下にそれぞれの項目ごとに概要を報告する。

・学内の実施体制について

前年度までに引き続き主管会議と連携した「教育AP推進室」により4つの部門を配置する事業運営体制を継続した。また4主事を含め全7学科等からAP委員を招聘し、AP事業の広報体制を拡充した。そして、4主事の副校長業務と対応させ、より主体的にAP事業に取り組める組織へと意識改善を進めた。なお、4つのチームは次の各部門である。Ⅰ. 教務主事・寮務主事による、教育課程へのAL活用を推進する部門。Ⅱ. 研究主事・学生主事による、非教育課程活動の実践技術単位ポイント化を推進する部門。Ⅲ. 事務部とメディア補佐（各科）によるICT教育環境改善部門。Ⅳ. 教育AP推進室長と研究主事による各種連携部門。以上により、AP事業は全教職員・学生・本校関係者による学校全体での実施体制であることを可視化した。

・中心となる取組について

本年度の主な取組は、テーマⅠ関係は、ALに関するFD・SD活動の推進、ICT活用教育の更なる推進、専門5学科へのラーニングコモンズの展開、及び、学生APアンケート結果の授業参観での活用など、AP成果の可視化およびフィードバック戦略を推進した。また、テーマⅡに関しては、実践技術単位制度の全専門学科への展開と、その各科での活用成果の可視化を専門5学科でそれぞれ展開し、成果報告会で学内外に可視化し共有した。また、第4学年学生のプログによる学生調査を実施し、個別受審学生にはもちろん教職員にも、本校教育による学修成果の全体像の可視化を進めた。

・取組の成果について

APによる取組の成果は、本校内での公開成果報告会（3月）での広報はもちろん、8月の全国高専フォーラム、12月の大学ICT推進協議会年次大会、1月の全国高専シンポジウム、2月のAP成果全体報告会等に参加し、相互に成果を可視化し共有した。特にAP期間と予算の1年間の延長を本年度に活用し、5学科へのラーニングコモンズの展開や第4学年学生全員のプログ試験を実施した。これらの成果は他大学・高専との比較とともに年度末のAP成果報告会で可視化し、学内外と共有した。また、FD・SDでの相互協力体制など、以上のようなAPによる取組成果の相互の可視化により、教育改革推進への他機関との連携が進んだ。

・補助期間終了後の継続発展に向けた取組について

補助期間終了後の継続発展に向けた取組に関しては、平成30年度以降に検討していくが、現在までに蓄積したICT活用教育環境の維持が最大の課題である。教育環境が維持できれば、教育コンテンツの継続発展は外部連携とともに雪だるま式に進むことが期待できる。学修成果の可視化にかかる実践技術単位制度については、より分野横断的能力やリーダーシップやコミュニケーション能力、チームワークなどを定量化できる様に展開していく。学修成果を総合的に定量化し、学年・学科・年度を追った比較などが可能な体制を維持できる様に、サーバへのデータ蓄積を継続し、その解析と活用を推進していく環境は構築できた。この取組は高専機構による全国高専共通の学生ポートフォリオシステムへと繋いでいく予定である。

・学内外への波及効果について

学内外への波及効果については、LMSの活用などのICT活用教育環境改善が学生に好意的に捉えられる様になり、活用する教員も過半数を超えたので、学内でのAL活用や学修成果の可視化は自転可能になったと言える。本年度はAP事業の学内外への広報活動(参照 URL <http://www.gifu-nct.ac.jp/AP2014/>)を意識したことで、近隣の高専や大学との連携も深まりつつある。文科省によるAP全体会議の今後の推進により、高専機構内を越えた連携や事業成果の共有が生まれつつある。

この様な学内外への波及効果がAP事業に求められる最も大切な事項であるので、AP事業成果の報告による相互の可視化と外部取組の成果の共有を次年度以降も推進して行く。